

# 「JR川口駅」を核としたまちづくりについて①（背景）

## 川口駅が有する2つの「近さ」

### 都心への「近さ」

- 川口駅は、東京23区以外の都内市のどの駅よりも、東京駅に近い（県内では最も至近）
- こうした立地はまちの成り立ちに多大な影響  
※江戸時代中期に、一大消費地の江戸へ、荒川・芝川といった舟運を利用した商品流通が発達し、鋳物・榎木等の産業が栄えたことがまちの成り立ち



### 集客施設への「近さ」

- 特に、川口総合文化センター・リリアは、西口デッキ直結で駅から徒歩1分であり、近隣市の集客施設と比較して、駅に至近

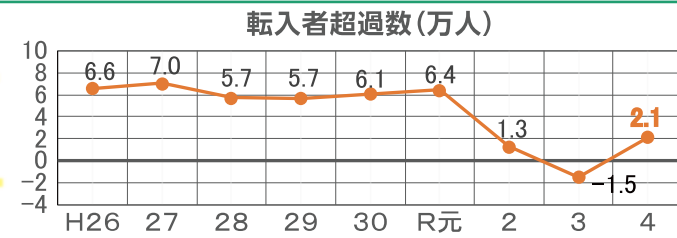
| 施設名          | 最寄駅からの距離   |
|--------------|------------|
| 総合文化センター・リリア | 川口駅より約60m  |
| ソニックシティ      | 大宮駅より約500m |
| 埼玉会館         | 浦和駅より約500m |

- 駅の隣接地に、約4haの都市公園（川口西公園）が存在



## 再加速する「東京一極集中」

- 東京23区は転入者が転出者を上回る「転入超過」が長年継続
- コロナ禍の令和3年に、初めて「転出超過」となったが、令和4年には2万人超の「転入超過」となり、一極集中が再加速



## まちの評価上昇

### 住みやすいまちとして評価

- 立地に加えて、子育て環境の充実等から、「本当に住みやすい街大賞」に2年連続で1位を含む4年連続ランクインなど、「住みやすいまち」として高い評価

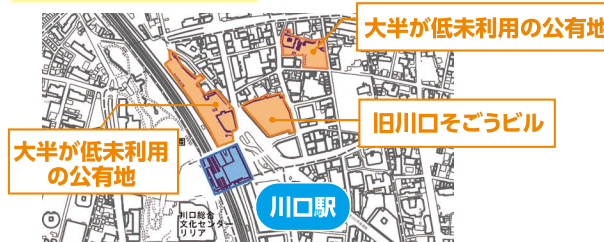
### 地価の上昇

- 埼玉県内の公示地価の上位10地点のうち、3地点は川口駅東口
- なお、上昇率の上位10地点のうち、8地点は川口市内

## 更なる発展の余地と課題

### 低未利用地や更新が必要な建物の存在

- 東口に、大規模な公有地や、旧そごうビルの敷地等の更新が必要な民地が存在



### 通勤・通学時等における混雑の発生

- 通勤・通学時の激しい混雑に加え、列車の遅延・運休時には駅舎内や駅前広場等に利用者があふれている状況



「更なるまちなか居住の推進」や「広域での関係人口の拡大」に向けて、発展の余地は大きく、そのためには、川口駅の鉄道輸送力の増強がカギとなる

# 「JR川口駅」を核としたまちづくりについて②（取組方針）

川口駅が有する2つの「近さ」を最大限に生かす、「JR川口駅」を核としたまちづくりを進め、

- ① 住民や利用者の更なる利便性の向上(住み続けたいまち)に加えて、
- ② 東京都への通勤者等のまちなか居住の推進(さらなる選ばれるまち)や、
- ③ 市内外から駅周辺に訪れる関係人口の拡大(広域での関係人口の拡大)を図る

住み続けたいまち

さらなる選ばれるまち

+

広域での関係人口の拡大

## 具体的な取組方針

### 【取組の内容】

### 優良な住宅の整備促進

- 1 低未利用地等の再開発事業等による住宅整備

- 4 駅から拠点施設への回遊性向上

- 5 オープンスペースの滞在快適性の向上

回遊性・滞在快適性の向上

通勤・通学の円滑化  
中距離電車のホーム増設等の駅リニューアル

駅から拠点施設への移動等の円滑化

駅利用者の安全・安心の確保

### 集客拠点の整備促進

- 2 リリア大規模改修、美術館建設

- 3 低未利用地等の再開発事業等による商業・業務施設の整備

- 6 災害時における帰宅困難者用の一時滞在施設の整備

防災性の向上

### 【取組推進のための体制整備】

まちなかウォークアブルの推進(国)  
(車以外の鉄道・徒歩等での移動促進)

埼玉版スーパーシティの推進(県)  
(広域で人が集う業務・交流・文化の集積)

